

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・集団のきまりやルールを守って安全に学習する態度は育ってきている。また、用具の使い方や安全な場の使い方についても、少しずつ意識して活動できるようになった。
- ・教え合いや助け合いを通して、互いに学び合う力が少しずつ意識できてきており、他の教科においてもその影響が見られるようになった。

(2) 課題

- ・自分の好きな領域には積極的に取り組めるが、苦手な領域になると消極的になる傾向がある。
- ・児童は、めあてをもって学習に取り組むために、学習カードを活用するようにした。しかし、学年によって使用頻度に差があるので、全学級で積極的に取り組んでいくようにする。
- ・児童一人一人の技能の差が大きいので、苦手な児童も進んで取り組めるように、ルールを子どもたちが決めたり、教材・教具の工夫をより考えて行ったりしていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
苦手な児童も進んで取り組むことができるよう、教師が見本を見せたり、友達の良い動きを取り上げたりする。また体づくり運動を通して互いにかかわりながら運動する楽しさを味わわせる。	各種の運動遊びにおいて、教師が動きのねらいを把握し、そのねらいに合った動きを認めながら児童がめあてをもって主体的に活動する授業展開に取り組む。	運動のねらいに合った様々な運動遊びを取り入れ、児童からの動きを引き出すようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎日健康に過ごすために、1日の生活の仕方が大切であることに気付くことができるようにする。そのため、学校として生活習慣を振り返ることができるような活動を行っていく。児童が進んでチーム練習やゲームでのアドバイスや審判などができるようにする。そのために、教師は、練習の仕方や審判のやり方などを的確に指導する。	ゲームでは、試しのゲームをし、ルールの改善をしていくような展開にする。児童がめあてをもって、自分たちの実態や学習のねらいに合ったルールを考えて活動できるようにする。そのために、教師は的確な指導・支援ができるようにする。	児童の多様な動きを認め、教え込むのではなく、よい動きや態度が次の活動につながるような展開にしていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
心の健康について、人との関わりが大切であることに触れ、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて理解したりできるよう、コミュニケーションを多くとることのできる場を設定する。ICTを使い、技能の向上の実感を視覚的に把握できるようにする。苦手な児童も進んで取り組むことができるよう、めあてを立てて教え合いや助け合いの場を多く取り入れていく。	どの單元でも1時間ごとに振り返りをする時間を設定する。ゲームやボール運動では、グループやチームでホワイトボード等を使い、作戦を考える時間を設定する。鉄棒や縄跳び運動など、めあてを立てて進んで練習していくような環境づくりに取り組む。	授業の中で練習時間を設け、チームで練習内容を選択する。運動ができる児童だけが活躍しないようにルール作りを工夫する。児童が進んでチーム練習やゲームでのアドバイスや審判などができるようにする。そのために、教師は、練習の仕方や審判のやり方などを的確に指導する。